

私たちはあいちフェアを応援しています
愛知万博10周年!



花と緑の夢あいち

第32回全国都市緑化あいちフェア

<http://www.aichi-fair2015.jp/index.html>

～ 作成 ～

花の王国あいち県民運動実行委員会

(愛知県農林水産部園芸農産課内)

〒460-8501

名古屋市中区三の丸3-1-2

Tel : 052-954-6419(直通)

平成26年11月

花いっぱい県民運動

<http://www.pref.aichi.jp/engei/hana-ippai/>

[h25hana-ippai/index.html](http://www.pref.aichi.jp/engei/hana-ippai/h25hana-ippai/index.html)



「花いっぱい県民運動」	1
「今月のあいちの花」について	2
4月の「今月のあいちの花」「デルフィニウム」	3
ちょっと一息♪(デルフィニウム誕生の伝説)	4
5月の「今月のあいちの花」「ハナショウブ」	5
ちょっと一息♪(アイリスの誕生伝説)	7
さらに一息♪(アヤメとカキツバタ、ハナショウブの見分け方)	8
6月の「今月のあいちの花」「ユリ」	9
ちょっと一息♪(女性の美しさ・・・♪♪)	11
7月の「今月のあいちの花」「ドラセナ類」	13
ちょっと一息♪(幸福をよぶ植物『ドラセナ』!!)	14
8月の「今月のあいちの花」「ケイトウ」	15
9月の「今月のあいちの花」「小菊」	17
10月の「今月のあいちの花」「バラ」	18
ちょっと一息♪(青いバラへの飽くなき挑戦)	19
11月の「今月のあいちの花」「シャコバサボテン」	20
ちょっと一息♪(カクタスいろいろ・・・)	22
12月の「今月のあいちの花」「シンビジウム」	23
ちょっと一息♪(最近はやりのキャスケードタイプ)	25
1月の「今月のあいちの花」「ピンポンمام」	26
2月の「今月のあいちの花」「ストック」	27
3月の「今月のあいちの花」「スイートピー」	29
ちょっと一息♪エディブルフラワーってご存知ですか?	30
ちょっと一息♪フラワーバレンタインってご存知ですか?	31

花いっぱい県民運動

ご存じですか？

愛知県は昭和37年以来51年にわたって
花の生産額が日本一の「**花の王国**」なんです☺

平成24年産の愛知県の花き産出額は**559億円**で全国
の**約16%**の花を生産する日本一の「**花の王国**」なんです☺
2位の福岡県と比べて3倍近く花の生産が多いんです。
(平成24年産 農林水産省「生産農業所得統計」)

県内の生産は？

県内全域で生産が盛んでそれぞれ特色のある種類が生産
されています。特に、**東三河地域**では県全体の**約7割**の花き
を生産しています(平成24年産 県園芸農産課業務統計)。

県内の花の消費は？

でも、県庁所在地(名古屋市)の花の消費額は全国でも上位
ではなく**切り花**では**20位**、園芸品・同用品(苗物やガーデ
ニング用品等)では**34位**なんです☹
(平成25年 総務省「家計調査」)

そこで、県民の皆様の花への関心を一層
高めて花の需要拡大を図るために、暮らし
の中に花を取り入れる「**花いっぱい県民運
動**」を実施していきます☺

今月のあいちの花



♪ 今月のあいちの花について ♪

👑 県内の産出（生産）額が概ね1億円以上ある花の種類。

👑 愛知県が育成した品種がある花の種類。

などを基準に、出荷がピークとなる月にその種類（花）を選定しています。

👑 平成 25 年 4 月から 3 年間、月ごとに異なった花を選定しています（次ページからは平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までを記載）。

👑 皆様も、是非「今月のあいちの花」を様々な場面で飾ってみてはいかがでしょうか。😊😊😊

※以降のページでは品種名を“〇〇〇”と表現します。



月 デルフィニウム

学名：	<i>Delphinium grandiflorum</i>
植物分類：	キンポウゲ科デルフィニウム属
和名：	大飛燕草（オオヒエンソウ）
英名：	Delphinium
花言葉：	「慈悲」、「清明」、「高貴」、「尊大」、「あなたは幸福をふりまく」 (ピンク)「気まぐれ」「移り気」



- 「デルフィニウム」という名前は、学名の *Delphinium* の読みそのままとなります。この学名は、「蕾の形」が「イルカ」のように見えるところから、ギリシア語のイルカを意味する Delphis「デルフィス」あるいは Delphin「デルフィン」に由来しています。
- 原種の生育地は、ヨーロッパ、北アメリカ、アジア、熱帯アフリカなどの山地で約 250 種が分布します。
元々は多年草ですが、日本の夏の暑さに耐えられないことから、お花屋さんなどでは「秋まき一年草」として扱われることもあります（高冷地など比較的冷涼な地域では容易に夏越しできます）。



鮮やかな青色の一重品種
「シネンシス系」



紫色で直立する八重品種
「パシフィックジャイアント系」



ちょっと一息 ♪


デルフィニウム誕生の伝説

【ギリシャの伝説とデルフィニウム】

- 昔、ギリシャの海辺近くにオルニトプスという青年が住んでいました。彼は釣りが好きだったのですが泳げなかったので、毎日、海辺に行って陸から釣りをするのを楽しみにしていました。
- ある日、オルニトプスはうっかり海に落ちてしまったのですが、泳げない彼をイルカたちが協力して助けました。それ以来、オルニトプスと心が通じ合うようになったイルカの群れは彼のすぐ近くまでやって来るようになりました。
- ところが、毎日のようにイルカが来るようになったため、漁師たちは不漁が続き、稼ぐことができなくなりました。
- そこで、漁師たちはイルカを捕らえようと計画したのですが、オルニトプスは漁師の邪魔をしてイルカたちを沖へと逃がしてやりました。漁師たちは、激怒してオルニトプスを海の中に突き落としてしまいます。
- 泳げない彼は、溺れ死んでしまいました。
- イルカたちは、自分たちを助けて溺れたオルニトプスの死を嘆き悲しんで、神様にオルニトプスを花にしてもらおうようお願いしました。
- 神様はオルニトプスを、イルカの仲間として蕾がイルカによく似ているデルフィニウムの花に生まれ変わらせました。
花言葉の「慈悲」はこの言い伝えに由来するとも言われています。



月 ハナショウブ

学名：	<i>Iris ensata</i> var. <i>ensata</i> (<i>I. ensata</i> var. <i>hortensis</i> , <i>I. kaempferi</i> .)	 “藍草紙” 写真提供は全て 愛知豊明花き流通協 同組合
植物分類：	アヤメ科アヤメ属	
和名：	花菖蒲（ハナショウブ）	
英名：	Japanese water iris	
花言葉：	「慈悲」、「清明」、「高貴」、「尊大」、「あなたは幸福をふりまく」、「うれしい知らせ」、「優しさ」、「伝言」、「心意気」、「優しい心」、「優雅」、「あなたを信じる」、「情熱」、「信頼」、「忍耐」	

- ハナショウブはノハナショウブ(学名 *I. ensata* var. *spontanea*) の園芸種で、6月ごろに花を咲かせます。
花の色は、白、桃、紫、青、黄など多数あり、世界中に数千品種あるといわれています。
- アヤメ類の総称として、「ハナショウブ」を「アヤメ」と呼ぶ習慣が見られます。また、「ショウブ」と呼びながら「ハナショウブ」を指すこともあります。端午の節句（たんごのせっく）で菖蒲湯（しょうぶゆ）等に用いられる「ショウブ」はショウブ科に分類される別種の植物です（ちょっと一息♪を参照）。
- 「ハナショウブ」を大別すると、「江戸系」、「伊勢系」、「肥後系」の3系統と、原種の特徴を強く残す「長井古種（長井系）」を含めて4系統に分類します（6ページを参照して下さい）。
他にもアメリカなどの海外でも育種が進んでいます（アメリカ系など）。
- 「江戸系」は群生の美しさを鑑賞する品種です。
江戸後期に松平定朝（さだとも）（別名：菖翁（しょうおう））が、60年間で300近い品種を作出した系統です。

- 「肥後系」は江戸系から改良された品種で大輪系統です。
肥後熊本藩主細川斉護（なりもり）が、藩士を菖翁に弟子入りさせ、門外不出とされていた品種を譲り受けて作られた系統です。
- 「伊勢系」は雄しべの先にトサカ状の切れ込みが見られる品種です。
伊勢松阪の紀州藩士 吉井定五郎により独自に品種改良されたという品種群で、「伊勢三品（松阪三珍花（まつさかさんちんか）」の一つとなります。
- 「長井古種」は、3系統に枝分かれする以前の原形を留めたものと考えられています。
山形県長井市で栽培されてきた品種群で、3系統いずれにも属さない品種群であることが確認され、「長井古種」として知られるようになりました。江戸後期からの品種改良の影響を受けていない、江戸中期以前の原種に近い品種群と考えられています。



江戸系
“古希の色”



肥後系
“小袖”



長井古種
“雪姫”



“金星”



“信濃路”



ちょっと一息 ♪
アイリスの誕生伝説

【『ゼウス』と『ヘラ』、そして『アイリス』】

- アイリス (Iris) というのは、ギリシャ語で「虹」という意味だそうです。
そんなことも頭の片隅におきながらアイリス誕生の伝説を読んで下さい。
- ギリシャ神話でゼウスの妻であるヘラにかわいがられていた美しくつつましい「アイリス(アイリスのギリシャ語読み)」という名前の侍女がいました。アイリスは、ゼウスに見初められて求愛されましたが、ヘラに「ゼウスの求愛を退けて、どこか遠くへ行かせて欲しい」と打ち明けました。
- 「ヘラ」は「アイリス」に虹色の首輪を授けるとともに、神の酒を三回振りかけ「虹の女神」として使者の役を命じられました。その際、ひとしずくが地上に落ち「アイリス」の花が咲いたと言い伝えられています。そして「アイリス」は天上と地上を往復する神々の使者となったとされます。





さらに一息 ♪♪

アヤメとカキツバタ、ハナショウブの見分け方



【いずれアヤメかカキツバタ】

- 『いずれ菖蒲(アヤメ)か杜若(カキツバタ)』『いずれが菖蒲か杜若』とも言います)とは、どちらもすぐれていて、選択に迷うことのとえです。「あやめ」と「しょうぶ」は漢字で書くとどちらも「菖蒲」になります。漢字は同じでも菖蒲(アヤメ)と菖蒲(ショウブ)は全くの別物なんです。さらに、「菖蒲(ショウブ)」と菖蒲園などで見る「花菖蒲(ハナショウブ)」も別物です。
- 「アヤメ」と「ショウブ」と「ハナショウブ」はそれぞれ別種です。それに『いずれ「菖蒲」か「杜若」の「杜若(カキツバタ)」を加えて、下表のようにまとめられます。
- ちなみに、端午の節句に「菖蒲湯(しょうぶゆ)」に用いる「菖蒲」の葉は(サトイモ目)ショウブ科ショウブ属で他の3種類とは異なる種になります。名前がショウブとなっているので、ハナショウブの葉だと勘違いしてしまうのですが全く違う種類です。

植物種名	和名	科名	生育場所	開花時期	花の特徴
アヤメ	菖 蒲	アヤメ科 アヤメ属	畑地	5月中旬～下旬	花弁の元のところに網目状の模様。
カキツバタ	杜 若	アヤメ科 アヤメ属	湿地	5月中旬	花弁の元に白い目型の模様。
ショウブ	菖 蒲	ショウブ科 ショウブ属	湿地	5月頃	花は目立たない黄緑色。
ハナショウブ	花菖蒲	アヤメ科 アヤメ属	畑地～湿地	5月下旬～6月下旬	花弁の元に黄色い目の形の模様。

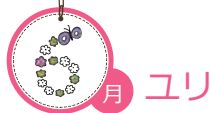


カキツバタ
“天の釣舟”



ハナショウブ
“古希の色”

写真提供：愛知豊明花き流通協同組合(2点とも)



月 ユリ

学名：	<i>Lilium</i>	
植物分類：	ユリ科ユリ属	
和名：	百合(ユリ)	
英名：	lily	
花言葉：	「威厳」、「純潔」、「無垢」、 (白)「純潔」、「威厳」、「無垢」、「甘美」、「無邪気」 (桃)「思わせぶり」、「富と繁栄」 (黄色)「甘美」、「陽気」、「飾らぬ美」、 「天にも昇る心地」 (橙色)「華麗」、「愉快」、「軽率」 (カサブランカ)「純潔」、「威厳」、「高貴」 (ヤマユリ)「純潔」、「荘厳」、「人生の楽しみ」、「威厳」	

- 属名の *Lilium* はラテン語(ケルト語の「白い」と「花」に由来と言う説もあります)でユリの意味です。北半球のアジアを中心にヨーロッパ、北アメリカなどの亜熱帯から温帯、亜寒帯にかけて広く分布し、原種は100種以上を数えます。和名ユリの語源は諸説あります。見た目に由来するという説は、
・花が風に揺り動く様の「揺り」
・球根は鱗片が寄り合って(重なり合っ)ている、「寄り」がなまってなどの説があります。
- 野生種4系統に、園芸品種は元となった野生種の違いで8系統に分けられます。以下に皆さんになじみのある4種を紹介します。

園芸品種

アジアティック・ハイブリッド

アジア原産で主にオレンジ色系の花を咲かせるエゾスカシユリ、オニユリ、ヒメユリなどが元



となった系統で、スカシユリと呼ばれることも多いです。花は上向きに咲き、芳香は弱いです。花色はオレンジ、黄色、赤、ピンク、白などがあります。植えばなしにしても毎年花を咲かせてくれる強健な品種も多く、庭植えにも適します。

オリエンタル・ハイブリッド

日本に自生するヤマユリ、ササユリ、カノユリを中心として改良された系統です。芳香を放つ大輪の花などがあり、花色は白やピンク、紅色などです。ウイルス病に弱いなどの性質を持つ品種も多く、やや栽培しにくい系統です。代表的な品種に白花大輪の「カサブランカ」があります。



日本特産（野生種）

ヤマユリ (*L. auratum*)

原産地は本州ですが、北海道や九州、四国にも野生化したものが見られます。花の大きさは野生のユリの中でも最大級で直径25cmほどです。色は白で、花びらの中心に黄色い筋が走り、花弁に赤褐色の斑点が入ります。球根は淡いクリーム色で苦みが少ないので食用にもできます。



ササユリ (*L. japonicum*)

本州中部から九州に分布します。主に山地の草原や明るい林間に生育します。初夏から7月にかけて長さ10~15cmで淡紅色の美しい花を咲かせます。開花時は強い香りがあります。



自生地の山林に人の手が入りにくくなった為か、自生地のササユリが減少していると言われています。

！！ ここに注意 ！！

赤褐色～黄色の花粉が入っている**葯(やく)**の取り扱いには注意が必要です。

花粉が服などにつくとクリーニングでも落とすのはなかなか難しいので、開花したユリを扱う際は服や皮膚に花粉がつかないように注意します。お花屋さんでユリを購入すると開花した花の葯は取り除いてあります。また、新たに咲いてきたユリの花は、葯が開いて**花粉がこぼれる前にティッシュなどで包みながら取り除きます**。



ちょっと一息♪
女性の美しさ・・・♪



【立てば芍薬座れば牡丹 歩く姿は百合の花】

- 「たてばしゃくやくすわればぼたん あるくすがたはゆりのはな」
単に「立てば芍薬座れば牡丹」とも、「立てば芍薬居(とど)すりゃ牡丹、歩く姿は百合の花」ということもあります。
- 芍薬も牡丹も共に華麗なイメージで美しい花。百合は華やかさとともに清楚なイメージがあり、いずれの花も「美人の姿」や「立ち居振る舞い」を花に見立てて形容している言葉です。
- 芍薬も牡丹も同じボタン科ですが、芍薬は草本(そうほん。つまり草)で、すうりと上へ伸びて茎の先端に華麗な花を咲かせます。牡丹は木本(もくほん。つまり木)で枝分かれした横向きに広がった枝に華麗な花をつけます。百合はすっと立った樹姿(きすがた)に風を受けて揺れるさまが、女性が綺麗に歩く姿がイメージされることから、この様に呼称されて美しい姿の代表格の一つとされます。
- 別の説として、芍薬は立って見るのが一番美しい。牡丹は座って見るのが一番美しく、百合は歩きながら見るのが一番美しいという説もあるようです。
また、牡丹は枝分かれした横向きの枝に花をつけるため、まるで座っているかのように見え、観賞するときも座って観賞したほうがきれいに見えるそ

うです。中国では「花の王」！！と呼ばれ、華やかさの象徴とされます。

百合は、しなやかな茎の先に花が咲き、風をうけて揺れる様子は、まるで女性が優美に歩いているように見えることから美の象徴とされます。


- 別の説では、この言い回しは、元々は生薬（しょうやく）の用い方を例えたものという説があります。漢方薬は数種類の生薬を混合し煎じます。それぞれの生薬には特有の薬効があり、症状に応じて適したものを uses。

「立てば芍薬」の「立てば」はイライラとし「気のたって」いる女性を意味し、芍薬により改善されるとか・・・。「歩く姿は百合の花」は百合の花のように風にたなびいてユラユラと歩く様子を表し、その症状を改善するのに「百合の球根」を用いるとか・・・。

どの説も本当のように聞こえますね♪



月 ドラセナ類

学名：	<i>Dracaena</i>	
植物分類：	クサスギカズラ（リュウケツジュ） 科ドラセナ属	
和名：	龍血樹（リュウケツジュ） （「幸福の樹」などが含まれる）	
英名：	dracaena, dragon tree	
花言葉：	「幸福」、「幸せな恋」、「幸福」、「隠しきれない幸せ」（ドラセナ・フラグラランス）、「永遠の愛」、「名もない寂寥」（シロシマセンネンボク）、「真実さ」（ドラセナ・コンシンナ）	

- 熱帯アジア、熱帯アフリカ原産で、50種類以上が分布する常緑性の樹木です。葉っぱの姿や模様が個性的で美しいことから多くの種類が観葉植物として『鉢植え』で流通しています。

学名（属名）の *Dracaena*（ドラセナ）は、幹を傷つけると滲み出る赤い樹液を「龍の血」と見立て、「龍の」という意味のラテン語に由来します。

- いくつかの種は幹が比較的柔らかいことから自由な形での加工ができます。例えば、サンデリアーナ (*D. sanderiana*) は「ミリオンバンブー」として、中華文化圏、特に台湾で金運を呼ぶ植物とされ、何本も束にしてリボンや金色の鈴で装飾された鉢植えが縁起物の装飾品とされています。日本においても「万年竹」として「縁起の良い植物」とされるなど、アジアを中心に人気が高い植物となっています。

<置き場所（日当たり）・水やり>

- 日当たりと風通しのよい場所に、室内であれば窓際の明るい場所に置きます。暗い部屋に置くと、日照が足りなくなって葉色が薄くなって株が弱ります。
- 逆に強い日射しに当たると葉が焼けてしまうので、夏は直射日

光を避けて明るい日陰に置きます。

- 温度管理は、基本的に寒さに弱く（室内に置く場合でも 5℃～10℃位は必要）、熱帯・亜熱帯地方では屋外に植栽されることがありますが、愛知県の辺りでは地植えで育てることは難しいです。
- ドラセナ類の水やりは、冬場は控えめにします。逆に温度の上がる春から秋頃までは、鉢土の表面が乾いた時に、鉢底から水が出てくる程度に水やりをします。

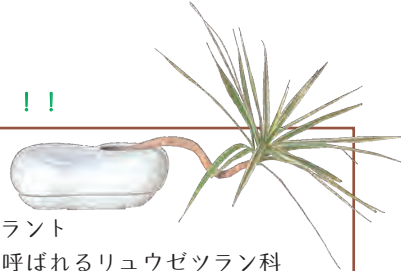
ちょっと一息♪
幸福をよぶ植物「ドラセナ」！！

【幸福を呼ぶのは・・・】


- ハワイアン・グッド ラック・プラント (Hawaiian Good Luck Plant) と呼ばれるリュウゼツラン科 コルディリネ属 (Cordyline) はドラセナと外観がよく似ています。
- ハワイで幸運の象徴として古来より使用される「ティ」とはこの「コルディリネ」のことです。
- 日本では、「コルディリネ」は外見や縁起物としての扱いが似ていることから「ドラセナ」として紹介されることもあります。
- こうして、「ドラセナ」として流通しているものの中にはコルディリネ属が含まれていることがあり混同されています。しかし、この2種は全く別属の植物なんですね。
- ただし、日本では管理のしやすいドラセナ・フラグランス (D. fragrans cv. Massangeana) が「幸福の樹」として、また、サンデリアーナ (D. sanderiana) は「ミリオンバンブー」として縁起物として定着しています。

おうちに飾って運氣アップする！？

・・・かも知れないですね。



ドラセナ・フレグランス
“マッサンゲアーナ”
写真：豊明花き株式会社

学名：	<i>Celosia argentea</i>	
植物分類：	ヒユ科ケイトウ属	
和名：	鶏頭、鶏冠花 (けいかんか)、韓藍 (からあい)	
英名：	plumed cockscomb (羽毛のある鶏の冠)、common cockscomb (鶏のとさか)	
花言葉：	「おしゃれ」、「風変わり」、「感情的」、「色あせぬ恋」、「情愛」、「個性」、「おしゃれ」(鶏冠鶏頭)、「個性」(槍鶏頭)	

- ヒユ科の一年生植物。原産地はアジア、アフリカの熱帯地方と推測されており、インドという説があります。日本には奈良時代に中国を経由して渡来したことから、かつては韓藍 (カラアイ) と呼ばれていました。
- その形状がニワトリの鶏冠 (とさか) に似ていることが和名の由来になっています。花期は 6 月から 9 月頃で、夏から秋にかけて赤・桃色・黄色などの花穂ができます。
- 流通している園芸品種は、花穂 ((かすい) あるいは花冠 (かかん)) の形状の異なる 4 つのグループ (トサカ系、久留米系、羽毛系、ヤリゲイトウ) に分ける説があります。これにノゲイトウ系を別グループとして 5 グループにするという説もあります。

【トサカ系 グループ】

花冠が鶏のとさかのように帯化した鶏冠 (とさか) ケイトウ。トサカの程度に個体差があります。

【久留米 (クリスタータ) 系 グループ】

お盆やお彼岸によく見られるタイプで、トサカ状の花が折り重なって固まり、球状になるタイプです。分枝はほとんどしません。

【羽毛 (フサゲイトウ、ブルモーサ) 系 グループ】

ふさふさした円錐形の柔らかな花穂が特徴。羽毛の長いものから





月小ギク

短いものまであります。お花屋さんではアレンジメントセロシヤとも呼ばれます。

【ヤリゲイトウ（キルドシー）系 グループ】

羽毛が玉状に固まって咲き、槍のように見えるタイプです。

【ノゲイトウ（アルゲンテア）系 グループ】

花穂は細長い円錐形（ヤリゲイトウに似る）で、トサカ状にはなりません。枝分かれしてたくさんの花穂をつけるものが多いです。属名の「セロシヤ」で流通する場合があります。

なお、ハゲイトウやヒモゲイトウは別属（アマランツス属）の植物です。



<播種（はしゅ）方法>

- 種子は嫌光性（けんこうせい）で、播種時は日光の当る場所では発芽しないことから、上から覆土をして暗くします。




<管理方法など>

- 栽培するときには、移植を嫌うので直播き（じかまき）します。ケイトウは大きくなってから根をいじるような作業（植え付け・移植）を行うと根付きにくい性質があります。
- 夏の間に通り花が咲いたあと、やや短めに丈を切り詰めると脇から芽が伸びて秋にも花を咲かせます。
- 肥料（特に窒素成分の多いもの）を多く与えると茎が太くなり葉もよく茂りますが、花が十分咲かず、花姿が乱れるので、肥料は多く与えずきよい気をつけます。
- 特に土質は選びませんが、地植えは水はけの良い場所に植え付けます。水はけの悪いじめじめ湿った場所では、根腐れを起こして枯れやすくなります。

学名：	<i>Chrysanthemum morifolium</i> ×	
植物分類：	キク科キク属	
和名：	菊（キク）、イエギク	
英名：	chrysanthemum , mum, florists' daisy	
花言葉：	「元氣」、「純情」 （キク全般）「逆境にいても快活」 （キク（赤））「愛しています」 （キク（白））「真実」	

- 「小ギク」という菊があるのではなくて、観賞用に栽培される花の小さい菊の総称です。花の直径が1センチメートルから3センチメートル程度のものをこの様に『小ギク』として分類します。小ギクは「お供え花」としての用途の他、「懸崖仕立て」や「菊人形」などの、秋に各地で催される菊の展示会等で重用されます。
- 栽培されているキクの由来には諸説ありますが、例えば、5～6世紀中国において野生種の「ハイシマカンギク」と「チョウセンノギク」が自然交雑したものを品種改良して園芸用のキク「イエギク」とし、平安期に日本に渡来したという説があります。
- 中国の宮廷において菊は不老長寿の薬効があるとされ、「菊の花には血を利し、身を軽くし、老いに耐え、年を延ばす」として、「不老長寿の薬」としての信仰がありました。そこで、陰暦の9月9日（重陽（ちょうよう）の節句）には菊の花を酒杯に浸した菊酒を飲み長寿の祈願をしたと言われていました。この風習は日本にも伝わり「重陽の節会（せちえ）」となりました。



学名：	<i>Rosaceae rosa</i>	  
植物分類：	バラ科バラ属	
和名：	薔薇（バラ）、ショウビ、ソウビ	
英名：	rose	
花言葉：	(全般)「愛」、「恋」、「美」、「幸福」、 「乙女」、「秘密」、「無邪気」 (赤)「愛」、「恋」「情熱」、「愛情」「あ なたを愛します」、「熱烈な恋」、「私を 射止めて」 (黄色)「明るく行動的なあなたに」、 「友情」、「可憐」 (白)「誠実で尊敬するあなたに」、「約 束を守る」、「無邪気」、「清純」、「純潔」 (ピンク)「上品」、「気品」、「しとやか」、 「美しい少女」 (オレンジ)「気さく」 (青)「奇跡」、「夢 かなう」	

- バラ（薔薇）は、バラ科バラ属の低木（灌木（かんぼく）、低木、または木本性（もくほんせい）のつる植物）の総称です。
花は香りが強いものが多く、花弁の形状から抱え咲き（かかえざき）・剣弁咲き（けんべんざき）・高芯咲き（こうしんざき）・平咲き（ひらざき）などに分類されます。
- 色は紅・赤・黄色などさまざまありますが、自然の花で完全な青色はありません。北半球の温帯域に広く自生しており、チベット周辺、中国の雲南省からミャンマーにかけてが原種の自生地、ここから中近東やヨーロッパへ、また極東から北アメリカへと広がったとされ、世界に約 120 種があるとされます。
- バラの花弁は農薬のかかっていないものを「エディブル・フラワー」として生食したり、花びらや実をジャムや砂糖漬けに加工

したり、乾燥させてハーブティーとして飲用できます。



ちょっと一息♪
青いバラへの飽くなき挑戦


【青いバラの秘密…】

- バラは、もともと青い色素を持つ原種が発見されていません。また、花の中で色素が作られる過程で、花の色が青色となる色素の部品すら合成されないため、原種を元にした交配育種法ではどのように組み合わせても青バラ作出は不可能とされていました。
- そういった理由もあって「青いバラ」の花言葉は「奇跡」や「不可能」といった言葉が当てられていました。
- しかし、近年、サントリーの研究で、他の種類の花から取られた青色色素の遺伝子導入によって「青い色素を持つ」青バラが開発されました。花言葉にも「夢 かなう」が追加されました。
- さらに、「青い色素は持たないが、薄青く見えるバラ（「青龍」を始めとするいくつかの）品種から、バラ独自の青い色素が発見されました。これはバラ独自の分子構造を持つため、「ロザシアニン」（Rosacyanin）と命名されました。
- このように、絶対に無理だと言われていた「青いバラ」ですが、遺伝子操作による青色色素をもつ品種の出現や、従来品種の交配による取組みによって「青いバラ」作出は道半ばまで来ているのかも知れません。この「ロザシアニン」の発見は、純粋な青バラ作出の残り半分の道のりを進む大いなる助けとなる可能性を秘めています。近い将来、交配による完全な「青いバラ」をお花屋さんで買える日も近いかも知れないですね。





月 シャコバサボテン

学名：	<i>Schlumbergera truncata</i>	
植物分類：	サボテン科シュルンベルゲラ属	
和名：	シャコバサボテン(デンマークカクタス、カニバサボテン)	
英名：	Holiday Cactus	
花言葉：	「美しい眺め」、「冒険心」、「つむじまがり」、「命の喜び」	

- ブラジルの山岳地帯(標高が 800~2700m 位で霧に覆われた森林)が原産です。流通している園芸種は、原種カニバサボテン(*Shlumbergera russelliana* シュルンベルゲラ・ラッセリアナ)と原種シャコバサボテン(*Shlumbergera truncata* シュルンベルゲラ・トルンカタ)の自然交配種をデンマークで改良されたものの系統が多いことから「デンマークカクタス」の名前で売られることもあります。

<株の選び方>

- 茎節(けいせつ)は濃緑色で、つやのある物を選びましょう。黄ばみ、赤み、しわのある物は避けた方が良いでしょう。

<葉の摘み取り方法>

- シャコバサボテンを綺麗に咲かせるためには、葉摘みが非常に大事な作業です。

【4月】

株の全体の姿を整えて、さらに生長を促すために、株元から 3~5 節を残して葉を摘み取ります(摘葉(てきよう)といいます)。この摘み取った葉(茎節)を利用し挿し芽で増やすこともできます。

【9月】

新しく伸びてきた新しい葉(赤っぽく小さな葉)は、花芽分化までに成熟できないので摘み取ります。

<水やり>

- 開花の後と冬、真夏は水やりを控え目にし、土の表面が乾いてきたら水をたっぷりと与えます。水を与えるタイミングは土の表面の乾きを目安にします。
涼しくなる 9 月下旬頃からたっぷりめの通常の水やりに戻します。
- また、摘葉後は水を控えめにしますが、米粒ほどの蕾の状態乾燥させると落蕾(らくらい)してしまうので乾かさないように注意します。

<温度管理>

- 高温多湿を嫌い、耐暑性はやや弱く、夏の暑さが苦手です。
- 春~夏にかけては基本的に屋外(直射日光の当たる場所は避けて風通しの良い明るい日陰)に置いて育てます。また、湿度が高くないように風通しにも注意します。
- 冬季は耐寒性 5℃以上あれば大丈夫ですが、室温が高いほど老化を早め、低いほど長く花を楽しめ、生育適温は 10~20℃です。
- また、凍らせると枯れてしまうので霜の降りる前に室内の日当たりの良い窓際などに移動します。

<落蕾>

- 購入して家に置いたら蕾がポロポロと落ちてしまったと言うことがあります。
シャコバサボテンの蕾は、育てられた場所と環境が大きく変わると敏感に反応して落ちます。
- 蕾が少し落ちたからと言って、頻繁に場所を変えると、環境変化にシャコバサボテンがついていけません。そこで、環境を変えたら、しばらくは場所変えを我慢してその場の環境に馴染ませるようにします。

<日の長さとお花>

- シャコバサボテンは日の長さが短くなると花芽を作る短日(たんじつ)植物(昼の長さが一定時間よりも短くなると花芽を着け



シンビジウム

る性質の植物＝夜の長さが一定時間よりも長くなると花芽を着ける植物) です。

- そこで、室内や電灯の下で育てていると、夜間もその明るさに反応して昼が延長されると植物が勘違いして、花芽をつくれな場合があります。
- そういった時は段ボール箱等で覆って、気温 20℃以下が約 1 ヶ月管理すると花芽が作られます。その後は平常の管理に戻して下さい。
- こういった理由で部屋の中に置きっぱなしだと花芽が付きにくい状態になるので注意してください。




ちょっと一息♪ カクタスいろいろ・・・



【イースターカクタス、シャコバサボテン、デンマークカクタス
そしてクリスマスカクタス・・・】

- 「イースターカクタス」という名前で流通している鉢花はシャコバサボテンに似た草姿をしていますが属が全く異なり別物で、イースターカクタスは「レプサリドプシス属」なんです。
- 「シャコバサボテン」はやや肉厚の平べったい葉が連なり、その先端に花を咲かせます。その平べったい葉の形状が「蝦蛄（シャコ）」に似ていることが植物名の由来です。こういったことから、シャコバサボテンは色々な呼び名がありますが基本的な性質や育て方は変わりません。
- また、デンマークで改良され 1980 年代に導入された、大輪早生のものを「デンマークカクタス」と呼ぶこともあります。
- 植物図鑑などには「カニバサボテン類の交配品種群」と書かれることもありますが、これらをさらに交配して作られたものが、現在、「シャコバサボテン」と呼ばれる品種群で、北半球では秋から冬の鉢花の定番で、クリスマスの頃に咲く種は、別名「クリスマスカクタス」とも呼ばれています。

学名：	<i>Cymbidium</i>	
植物分類：	ラン科シュンラン属	
和名：	シンビジウム、シンビデューム	
英名：	boat orchid	
花言葉：	「華やかな恋」、「高貴な美人」、「誠実な愛情」、「深窓の麗人」、「飾らない心」、「素朴」	

- 洋ランの中ではコチョウランと並んでポピュラーなグループで、洋ランとして古くから栽培されてきた四大洋ラン（カトレヤ、パフィオペディルム、デンドロビウム、シンビジウム）の一つとされてきました。
- 現在ではコチョウランが最も多い出荷量となっていますが、シンビジウムは日本では最もポピュラーな洋ランの一つで人気は高く、品種改良も進み、世界でも有数の育種や栽培技術を持っています。
- 出回る時期は冬から春。この時期の鉢花として定着しており、年末には贈答用に立派な姿の大型種から場所をとらない小型種まで多くの種類が入手できます。
- 花をつける花茎（かけい）は立ち上がるかやや垂れ下がり、下向きに伸びて花をつけるものが多いです。花もちが大変良い品種は 2 ヶ月以上咲き続けるものがあります。
- 入手した株で翌年以降も花を楽しみたい場合は、株が弱らないように長期間花を咲かせ続けられない途中で花茎を切ります。満開になってから一ヶ月くらい楽しんだあとで「切り花」にして楽しめます。翌年に花を楽しまない場合は花が枯れるまでそのまま楽しめます。

【購入してからの管理方法】

- シンビジウムは一般に寒さに強く、放置していてもよく育ちますが、葉ばかりが勢いよく出て花をつけないということがよくあります。

春先は新芽がたくさん出ますが、全て育てると葉の生長に栄養をとられるため、花が咲かなくなってしまいます。

そこで、一つのバルブ（偽球茎（ぎきゅうけい）部分）に一つの芽だけを残してあとはすべてかき取ってしまいます。

これを「芽かき」といい、春先の作業の一つです。

また、秋にも花芽と一緒に新芽がでてきますが、これもすべて取り除きます。

- 花芽と新芽は見た目がとても似ているので、間違っても花芽をとらないように注意します。少し大きくなった芽のうち、花芽（はなめ）は厚みがあり、葉芽（はめ）は葉が入っているだけなので少し薄いので区別できます。

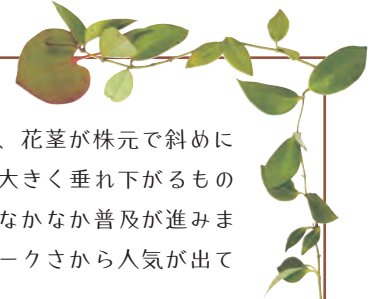
- 初夏から室外に出して良く日光に当てますが、真夏は葉焼けをおこさないように、日陰の風通しの良い場所で管理します。秋になって気温が下がってきたら再び日向で管理し、10月中旬頃には室内の日当たりの良い場所に置き場所を変えます。ただし、冬に暖房の効いた部屋に置く場合は、暖かすぎると花が早く終わってしまうので置き場所を工夫します。

- ウイルス病に感染すると株の寿命が短くなるので注意します。芽かきや株分けの際に、はさみなどの器具から感染することが多いので、清潔な用具を使うようにしましょう。一度かかると治療できない上に他にやる恐れもあります。



ちょっと一息♪♪

最近はやりのカスケードタイプ



【カスケードタイプ】

カスケードタイプと呼ばれるのは、花茎が株元で斜めに出て生長し、次第に曲がって下向きに大きく垂れ下がるものの呼び名です。輸送が難しいことからなかなか普及が進みませんでした。最近はその形状のユニークさから人気が出てきています。



カスケードタイプ
“ホシノオウジサマ”



通常のタイプ
“ミルクークイーン ブロムナード”




カスケードタイプ
“エメラルドフェザー”

写真：豊明花き株式会社（3点とも）





月 ピンポンマム

学名：	<i>Chrysanthemum × morifolium</i>	
植物分類：	キク科キク属	
和名：	菊（キク）、イエギク	
英名：	chrysanthemum, Ping Pong, pompon spray mum	
花言葉：	「真実」、「高貴」、「君を愛す」、「高潔」	

- ピンポンマムは花の形状に由来する呼び方で、卓球のピン球に似た形状のキクのことです。出荷される姿、または咲いている姿が綺麗な球状でまるでピンポンのピン球のようであるためにこの様に呼ばれています。
- 可愛らしい形状と多種多様な色から結婚式や花束などで使用されることも多いキクの種類です。
- 菊の中ではフラワーアレンジメントなどにも多く用いられ、結婚式の髪飾りやブーケなどに用いられることもあります。



月 ストック

学名：	<i>Matthiola incana</i>	 
植物分類：	アブラナ科アラセイトウ（マッティオラ）属	
和名：	紫羅欄花（アラセイトウ）	
英名：	stock, garden stock	
花言葉：	「変わらぬ美」、「自由気まま」、「可憐」、「未来を見つめる」、「努力」、「思いやり」、「愛の絆」、「求愛」、「永遠の恋」、「逆境の忠節」 (白)「ひそやかな愛」 (紫色)「おおらかな愛情」 (ピンク)「ふくよかな愛」 (黄)「さびしい愛」、「さびしい恋」 (赤)「私を信じて」	



- 南ヨーロッパ（地中海地方）原産で原産地では多年草、日本では秋蒔き一年草として扱われます。開花期は早春～春ですが寒さに弱いです。花壇に植える他、切り花にされます。古代ギリシャやローマ時代では薬草として利用されていました。日本には江戸時代初期に渡来し、大正末期には切り花用として栽培されていました。
- Matthiola（マッティオラ）は、16世紀のイタリアの医師で博物学者だった「Mattioli」氏の名前にちなみます。
また、「ストック」は英語の意味では「幹」や「茎」を意味しており、この種類がしっかりした茎を持つことに由来します。
- 購入した八重咲きのストック株からはタネが採れません。八重花は雄（ゆう）ずい（おしべ）も雌（し）ずい（めしべ）も花弁（花びら）となってしまうために生殖能力（種子を作る機能）がありません。
- そこで、種子を得るためには、八重と一重の遺伝子を両方持つ株から種子を取って、苗が小さいうちに鑑別を行うことで八重咲

き品種の苗が選べます。販売されている八重咲き品種のタネでも何割かは一重（ひとえ）の株が発生するのが当たり前なのでがっかりしないでください。

- 八重咲きを選ぶ方法は、本葉 2 枚の頃に子葉が淡緑色で、だ円形でしっかりしており、双葉の形が長めで大型、生育旺盛で本葉の大きな苗を残すと八重率が高くなります。
- 寒さにはやや弱く、霜に当たると枯れてしまいますが、植え場所を工夫することで、暖地では外で越冬できます。



月 スイートピー

学名：	<i>Lathyrus odoratus</i>	
植物分類：	マメ科レンリソウ属	
和名：	麝香豌豆（ジャコウエンドウ）、香豌豆（カオリエンドウ）、麝香連理草（ジャコウレンリソウ）	
英名：	Sweet pea	
花言葉：	「門出」、「思い出」、「別離」、「繊細」、「優美」、「デリケートな喜び」、「ほのかな喜び」、「優しい思い出」（桃）「繊細」「優美」（白）「デリケートな喜び」	

- 17 世紀末頃にイタリア・シシリー島で発見されイギリス、ヨーロッパ各地で改良が進み多くの園芸品種が生まれ現在に至ります。実は日本への来歴は不明とされていますが、幕末頃には渡来していたと思われます。強い香りがすることから、ジャコウレンリソウ(麝香連理草)の和名がありますが、この名前よりは英名のスイートピーで流通しています。
- スイートピーを含むマメ科レンリソウ属は世界に約 100 種分布します。そのうち 4 種が日本に自生します。一度植えると毎年花を咲かせる「宿根スイートピー」は同じ属の別種です。
- 豆や莢（さや）は有毒植物で、口にしないように注意が必要です。
- 植え替えを嫌うので、播種は栽培したい場所に直接まきます。





ちょっと一息♪

エディブルフラワーってご存じですか？

Q. エディブルフラワーってご存じですか？

A. エディブルフラワーとは

「edible」＝「食べられる」 「flower」＝「花」のことです。

- 「食べられる花」とは、「観賞用の花」とは違って、野菜と同じ感覚で安心して食べられるように育成・栽培された「花」のことで、ハーブなどもその一種です。
- 最近は食卓の彩りを目的として使用されるものも多いです。また、歴史的に日本でも昔からエディブルフラワー(当時はこのように呼んではいませんでした)を食べる習慣があり、例えば、「菜の花」や「食用ギク」、「シンの花」などが食用に供されてきました。最近では、大手スーパーマーケットや大手百貨店でも見かける機会が増えてきています。
- 国内生産量の9割以上を愛知県豊橋市が占めています。
ちなみに「エディブルフラワー」は野菜の扱いになります。



Q. 食べられるエディブルフラワーはどんな種類があるの？

A. 特殊な種類の花というわけではなく、普通に花壇やお花屋さんで見かける「パンジー」、「ピオラ」、「ナデシコ」、「デンファレ」など一般に流通している種類が多いです。ただし、苦みが少ないとか甘みのある品種が選ばれており、スーパーマーケットなどで入手できます。



食用ギク



食用バラ



デンファレ



ピオラ



キンギョソウ

○エディブルフラワーの種類

アリッサム、カレンジュラ、キク(食用菊)、キンギョソウ、ゴーヤ、サクラ、サイネリア、サルビア、シソ、ジニア、デンファレ、トレニア、ナデシコ、ナスタチウム、ナノハナ、ニラ、ノースポール、バジル、バーベナ、バラ、パンジー、ピオラ、ヒマワリ、フキノトウ、プリムラ・ジュリアン、プリムラ・ポリアンサ、プリムラ・メラコイデス、マリーゴールド、ラベンダーなど

*似た名前でも、別の種類で毒性を持つものもあるため、自分で育てる場合はエディブルフラワー用の種子を入手するなど安全に留意して下さい。



ちょっと一息♪

フラワーバレンタインってご存じですか？

Q. 『フラワーバレンタイン』ってご存じですか？

A. 既に恒例行事となっている2月14日のバレンタインデー。

デパートやスーパーマーケット、お菓子屋さんで様々なおいしいそうなチョコレートが並ぶ一大イベントとなっていますね。日本のバレンタインデーは、「女性から男性へチョコレートで愛(時に感謝などの意味もありますね...)」を伝える日」とされていますが、世界に目を向けると、「男女がお互いに愛や感謝の気持ちを伝えあう日」がスタンダードなのだそう。

気持ちとともに、花を添えて...そんなアクションを始めていこう!!
というのが「フラワーバレンタイン」の趣旨なんです♪



● 欧米の多くの国では、メッセージカードを交換したりすることが多いようです。その際に、メッセージに添えて男性から女性に花（赤いバラなど）を贈るのがポピュラーなスタイル♪

● 近隣のアジア諸国でも、バレンタインデーは男性から女性に花を贈る日となっているところが多いようです。

● 多くの国で重要なのは「花」だそうです。そして定番の一つはバラ！！

● バラを贈る際には、その本数に意味があることをご存じですか？

女性にバラを贈る際に、本数の意味を知っているのと予算の関係で適当に贈るのでは、その効果に違いがあるかも・・・。

ちょっとご紹介すると、

1本なら 最初のデートであれば「一目惚れです」！！

毎年の記念日ならば「今でもあなたを愛しています」♪♪

12本（1ダース）は 「僕のものになって！！」

24本（2ダース）は 「僕はきみのものです！！！」

100本は「結婚してください！」

とか・・・

もっと詳しくは

http://www.teleflora.com/rose_numbers.asp



● 女性から男性へ、チョコレート贈る気持ち

と同じように、男性から女性へ愛や感謝の気持ちを込めて、自分で選んだ花を贈ってみてはいかがでしょうか♪

詳細な情報と最新の情報。そして、男性から女性への花贈りの仕方の情報などは以下のHPなどを参考にしてください♪

<https://www.flower-valentine.com/>



【参考】

花きに関する情報については、様々な書籍・インターネット上の関連サイトなどを参考にさせていただき、花の王国あいち県民運動実行委員会事務局で編集しました。